

2011年7月29日

関係各位

野村ホールディングス株式会社  
コード番号 8604  
東証・大証・名証第一部

## 野村ホールディングス、2012年3月期第1四半期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(グループ CEO:渡部賢一)は、本日、2012年3月期第1四半期(2011年4-6月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は3,304億円、税前利益は344億円、同社に帰属する当期純利益は178億円となった。

同社のグループ CEO の渡部賢一は、以下のとおりコメントした。

「厳しい市場環境の中、当四半期も黒字を計上し、9四半期連続で黒字を達成した。国内ビジネスが健闘し、営業部門およびアセット・マネジメント部門は前四半期比で税前利益を増加させることができた。ホールセール部門は、欧州債務危機や日本の震災などを背景とした市場環境の悪化で厳しい決算となる中、米国ビジネスの構築は進捗し、グローバル・マーケット、インベストメント・バンキング共に前四半期比で増収となった。ホールセール部門は、適切に費用削減を行いつつ、将来への投資も両立させていく。また、当四半期は、野村土地建物を子会社化してグループ内で分散していた資本を集約した。今後もリスク管理および費用管理に万全を期し、顧客中心主義を基盤とする独立系投資銀行として、次の成長局面への足がかりとしたい。」

**2012年3月期第1四半期決算のポイント**

2012年3月期第1四半期決算のハイライトは以下のとおり。

	2012年3月期 第1四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	3,304 億円	+10%	+27%
税前利益	344 億円	△8%	5.3 倍
純利益	178 億円	+49%	7.7 倍

- 不安定なマクロ環境下においても9四半期連続で黒字を計上した。
- 国内ビジネスが健闘し、営業部門、アセット・マネジメント部門ともに税前利益が前四半期比で増加した。営業部門は特に投資信託の販売が好調で、引き続き全社の利益を牽引した。
- アセット・マネジメント部門は投資信託、投資顧問ともにビジネスが拡大し、運用資産残高は25.3兆円と前四半期比で6,000億円増加した。
- ホールセール部門は、欧州ソブリン危機や日本の震災などによるグローバルな市場環境悪化の影響で厳しい決算となったが、このような環境化にあっても、これまで戦略的に投資を行ってきた米国とアジアからの収益貢献は着実に進捗している。とくに米国ではビジネス構築が進み、グローバル・マーケット、インベストメント・バンキング共に、収益は前四半期比で増加した。
- 野村土地建物を子会社化し、グループ内で分散していた資本を集約した。
- 2011年6月末における速報値で、自己資本比率は19.8%、Tier 1比率は16.2%、2011年6月末現在のB/Sの資産合計は39.7兆円、株主資本は2.1兆円、グロスレバレッジは18.9倍、調整後レバレッジは11.6倍である。

2012年3月期第1四半期の各部門の状況

● 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は942億円、税前利益は220億円であった。

震災の影響に加えて歴史的水準の円高、そして東証の売買代金が前四半期比で25%減少という厳しい環境下、総募集買付額は11%減少したものの、コンサルティング営業を推進し、投資信託や外貨建て商品など、お客様のニーズに合わせた商品を提案することで、5四半期連続で顧客資産純増を継続した。

	2012年3月期 第1四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	94.2	△2%	△15%
税前利益	22.0	+25%	△42%

● アセット・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)は188億円、税前利益は74億円、6月末の運用資産残高は3月末比6,000億円増の25.3兆円となった。

公募株式投信(ETFを除く)の資金流入は、東日本復興支援債券ファンド、通貨選択型ファンド、日本株に投資するファンドを中心に約3,100億円であった。野村証券チャネルに加えて、銀行窓販でも資金が流入した。

投資顧問ビジネスでは、国内公的年金に加え、アジア・中東等の政府系機関、ソブリン・ウェルス・ファンドから、パフォーマンスが順調なアジア株商品等の受託が増加した。

	2012年3月期 第1四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	18.8	+9%	+20%
税前利益	7.4	+19%	+86%

● ホールセール部門

収益合計(金融費用控除後)は 1,412 億円、税前損失は 149 億円となった。

- グローバル・マーケットは不安定なマクロ環境や顧客アクティビティの低下が大きく影響したが、ビジネス基盤の拡大とリスク管理体制の拡充により、難しい市場環境下においても減収幅を小幅に留めた。
  - ✓ フィクスト・インカムでは、クレジット・プロダクトが日本の投資家による外債への需要の高まりや、欧州およびアジア(日本を除く)のストラクチャード・クレジットの伸長により増収となった。為替プロダクトも、ラテンアメリカの通貨を中心とするビジネスが伸び、過去 2 年で最高の収益レベルを達成した。
  - ✓ エクイティでは、米州・アジア各地域で増収となり、日本と欧州の不振を補った。米州は、2010 年 10 月にキャッシュ・ビジネスを本格的に立ち上げて以降、プログラム・トレーディング、デリバティブが好調で収益を拡大している。アジアでも顧客ビジネスがさらに拡大している。
- インベストメント・バンキングでは、米州をはじめとする海外での収益拡大、M&A および買収ファイナンス等の案件複合化の推進、ソリューション・ビジネスの拡大等により、引き続き収益を多様化させるとともに、日本においても前年同期並みの収益を確保した。

	2012 年 3 月期 第 1 四半期(10 億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	141.2	△24%	+30%
税前利益	△14.9	—	—

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(7月29日)午後6時30分より、決算説明テレフォン・カンファレンスを開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<http://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信いたします。

本資料は、米国会計基準による2012年3月期第1四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2011年7月29日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますので、ご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますので、ご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。